

新型コロナウイルスの変異株に感染した人が国内で100人を超えた。埼玉県では大規模クラスター(感染者集団)が発生するなど、感染は徐々に広がっている。世界保健機関(WHO)は「感染力は最大で7割増している」と評価し、専門家は警戒感を強めている。

【林奈緒美、小川祐希、金秀蓮】

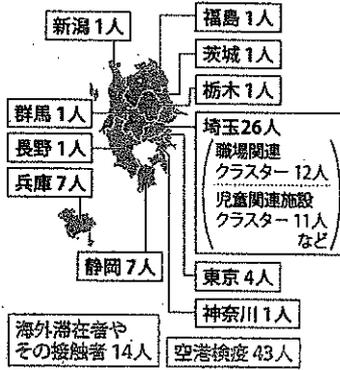
追跡

国内での変異株の感染者は、昨年12月25日に羽田空港と関西国際空港の検疫で初めて確認された。1月18日には市中感染とみられる感染者として、海外渡航者と接点がない3人が静岡県で確認された。10日までの感染者は108人で、うち空港検疫は43人、市中感染の疑い例は1都10県で51人、海外滞在者やその接触者は14人。また、英国由来の株の感染者は93人、南アフリカは11人、ブラジルは

変異株 徐々に拡大

国内100人突破 感染力は7割増

変異株による国内の市中感染状況 ※厚生労働省の発表を基に作成。10日時点



埼玉県では変異株により二つのクラスターが発生している。保育施設では10歳未満の子とも従業員ら11人の感染が確認された。もう一方のクラスターは、職場を感染源に広がったとみ

英国由来 致死率上昇指摘

WHOによると、2月8日時点で英国由来の変異株は86カ国、南アフリカ由来は44カ国で確認されており、警戒は世界に広がっている。

英国由来の株では致死率が高まるとの指摘がある。英BBCは9日、「データはまだ不確かだ」としながら「致死率が3割高まることを示唆する研究が複数ある」と報じた。米疾病対策

センター(CDC)も「英国の専門家が、変異株と死亡リスクの増加との関係を報告している」と、警戒を呼びかけている。子どもの感染のしやすさも議論されている。米誌「ユースウィーク」は昨年11月、12月に英国全土で実施された都市封鎖の期間中、15歳未満が変異株に感染した割合が従来の株よりも高かったことを、昨年末に紹介。

一方で英科学誌ネイチャーは1月28日、イングランド公衆衛生局の1月の報告から「今は全ての年代で広がりやすいと考えられている」との記事を掲載した。南アフリカのように、変異株に対する効果が見込めない可能性があるとして、アストラゼネカ製ワクチンの接種開始を見合わせる動きもある。

日本の専門家も見方が分かれていて、厚労省に新型コロナウイルス対策を助言する専門家は「変異株は、これまでの対策や知見を振り出しに戻すほどのものだ」と危機感をあらわにする。国際医療福祉大の松本哲哉教授(感染症学)は「埼玉ではそれなりの人数のクラスターが出ており、変異株の感染力は強いようだ」と警戒する。一方で長崎大熱帯医学研究所の森田公一所长は「変異株はまだ日本で広がっている状況はない。感染力の高さが英国で発表されているが、日本でも検証する必要がある」と指摘する。

厚労省は、新型コロナウイルスの接種場所を原則住民票がある市町村としている。ただ、長期入院などやむを得ない事情があれば、別の自治体での接種を認めている。

厚労省の手引によると、DV被害者以外に、出産のため里帰りしている妊婦▽遠隔地に下宿している学

生▽単身赴任者—については、接種を受ける医療機関がある市町村に原則事前に関出る必要がある。入院患者・施設入所者▽基礎疾患のある人が主治医から接種を受けるケース▽災害の被害者▽受刑者—の場合、市町村への届け出は不要。

【金秀蓮】